

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【愛媛県・西条市】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	西条市立橋小学校 全校児童96名 教職員15名 保護者2名 西条市内教職員（小・中学校）15名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 体育科 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ 給食を一緒に食べて交流 ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ スポーツを「する」ことのすばらしさを体得させ、これからさらに児童がスポーツに親しみ、体力と運動能力の向上を目指すこと</p> <p>○ オリンピアンとの交流を通して、目の前で迫力のある動きを見て感動を味わわせ、スポーツを「見る」楽しみを理解すること</p>
5 取組内容	<p>【事前学習】</p> <p><u>低学年：井村久美子さんについて知ろう。</u> 来校してくださる井村久美子さんについて伝え、興味・関心を持って講演を聞いたり、実技を一緒にしたりできるようにする。</p> <p><u>中学年：日本記録や世界記録を調べ、身近にあるものと比べてみよう。</u> 陸上競技の種目の中からいくつか例を取り上げ、日本記録や世界記録について調べさせることで、世界の強豪と競い合う日本人のすごさを感じることができるようになる。また、実際の記録を身近にあるものと比べ、トップアスリートの記録の偉大さを体感したり、パフォーマンスに興味を持ったりできるようにする。</p> <p>今回、井村さんの持つ女子走幅跳の日本記録6m86を教室で測り、記録が、教室の横幅より長いことを知った。</p>  <p><u>高学年：オリンピックについて知ろう。</u> オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料（スポーツ庁）や東京2020教育プログラム特設サイト内にあるオリンピック・パラリンピック学習読本を活用して、オリンピックでの実施種目やオリンピックの歴史、理念についての学習を行った。また、過去における大会を振り返り、その中で活躍した日本人選手について取り上げ、柔道の山下さんの話を基にしてフェアプレイの精神についても学習を行った。</p>

	<p>活躍した日本人選手の中には、西条市出身の田口信教さんがおり、金メダルを獲得したことを伝え、オリンピックが少しでも身近なものとして捉えられるようにした。</p> <p>【実践】</p> <p>①講演（40分）  「トップアスリートの栄光と挫折」  「周囲からのサポート」  「ノートに記録を残す」</p> <p>②模範試技と実技指導（60分）  走幅跳とハードルの試技と実技指導を行った。走幅跳では、助走から跳躍、着地まで一連の動きを模範試技として実演した。跳躍時の姿勢や跳び方など児童の目の前で行い、迫力ある様子が伝わった。その後、30名程度が井村さんの動きを意識して、跳躍練習を行った。多くの児童が意欲的に参加していた。  ハードルでは、高さ70cm4台のハードルを設置しての試技を披露した。</p> <p>③給食を一緒に食べて交流（25分）  6年生16名と給食の時間、交流を図った。アスリートを身近に感じることができるよう、給食を食べながらお互いに話をした。</p> <p>【事後学習】  発達段階においての指導を継続していく。東京オリンピック・パラリンピックで実施される種目について知ったり、どのような場所で大会が行われるかについて調べたりする活動を取り入れていく。自分たちの住んでいる西条市でもオリンピックに出場する選手（スポーツライミング）が合宿をするなど、オリンピックが身近なものであるということをさらに伝えていく。  また、2019年にはラグビーワールドカップが日本で行われるなど、世界規模の大会があるということも伝えながら、トップアスリートの活躍する舞台が見られる楽しみを味わえるようにしていく。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>【講演について】</p> <p>○ これまでの挫折を含め、結果を出すまでの過程を講演の中で話していただいた。児童にとっては、その挫折を乗り越えるための方法、教員にとっては、目の前にいる児童が悩んでいるときに、どう声掛けを続けていけばいいか、指南されるような内容の話で、今後の過ごし方に大きく影響を与えるような話であった。また、自分の目標を口に出すことで結果につながった、追い詰められたときもこれまでのことを思い出し、成功すると言い聞かせて記録を出したといった成功体験談も児童の心に残っている。</p> <p>○ 児童が一番心に留めていたのが、「ノートに記録を残す」ということであった。これまで、練習のこと、大会前の調整のこと、不安や悩みなど記録しておくこと、自分自身の状態を振り返ることに役立ったという内容で、その方法を児童にも勧めていただいた。</p> <p>【模範試技・実技指導について】</p> <p>○ 高学年の児童は、市内の陸上運動記録会に向け全員で陸上練習に取り組んできたこともあり、全員が走幅跳の練習経験がある。そのため、自分自身の記録と比べながら話を聞いたり、実際に跳躍する姿を見たりしていた。児童の感想の中には、「動画やテレビで見るとは違い、実際に目の前で跳躍する姿を見ると、迫力があった。」  「本で書いていたことを目の前で見ることができ、感動した。」など、その場でしか体験できないような感想があった。</p>

	<p>○ 低・中学年の児童は、模範試技を見た後、走幅跳に挑戦してみるといった趣旨で、多くの児童が何度も挑戦する姿が見られた。井村さんに声を掛けていただき、終始楽しく体を動かすことができていた。</p> <p>【給食での交流について】</p> <p>○ 6年生は、給食でも交流を行った。修学旅行のことや、中学校に行っている部活動のことなど、競技とは違って児童の身近な内容で話をすることができ、楽しい時間を過ごすことができた。アスリートを目の前にすることがあまりないため、とても貴重な時間になった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ オリンピアンとの交流を図って、運動嫌いの児童が、少しでも運動に興味を持ち、運動を習慣化できるようになってほしいという願いをもって計画をした。講演では、これまでの栄光と挫折について話をしていただき、少しでも自分の生活に役立たせることができるようなアドバイスになるように配慮をしていただいた。</p> <p>○ 本校は、100名以下の小規模校ということもあり、実施対象者を全校児童とした。低学年から高学年までが講演を聞き、模範試技を見たり、一緒に体を動かしたりしたことで、学校全体が一体となってオリパラ教育に参加することができた。また、全校で参加することによって、全教職員へオリパラ教育の資料を配布して、事前学習を行うことができ、普及にもつながったと考えられる。</p> <p>○ 市内近隣でプロスポーツやアマチュアスポーツなど、トップアスリートが集って大会をすることがないため、スポーツ選手に会い、交流する機会は少ない。今回、この事業を市内の小中学校にも案内をし、近隣の学校から15名の教職員が参加した。この活動の様子などを各校に持ち帰り、普及に努めていただくようにした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○ 今回の事業でトップアスリートと触れ合い、スポーツの楽しさを味わうことができた。しかし、今後、様々なスポーツと出会いの場が保障されているわけではないので、どれだけ子どもがスポーツを楽しみ、活動できるようにしていくかが課題となる。</p> <p>○ トップアスリートとの触れ合いのみでは、オリンピック・パラリンピックの意義などを伝える場にはなりにくく、スポーツに興味関心をもつことの要素が強くなると感じた。事前・事後指導をいかに充実させるかがオリパラ教育を推進していくうえで不可欠になると考える。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 西条市には、オリンピック種目の正式種目にもなっているスポーツライミングの施設があり、オーストリアの選手が来て、合宿などを行っている。この競技を紹介することで、子どもたちにオリンピックが身近なものであるということを伝えるようにしていく。また、オリンピックの意義や歴史など理論についても伝え、知識を身に付けさせていくことが重要になっていく。</p> <p>○ そのためにも、教員に対してオリンピック・パラリンピック教育の研修を充実させていく必要がある。体育主任や研修主任が中心となって、指導の充実を図っていきたい。</p>